

Ⅰ 主の良くして下さいた事を何一つ忘れず感謝する教会。

主の恵み、父の愛、聖霊の交わりを常に感謝したい。罪赦され、永遠の命が与えられ、生かされ愛されている恵み！

1. 「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粹な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」(Ⅰペテロ2：2)

の年度目標の聖句に励まされ、個人個人が、日々、御言葉を読み、味わい、また、牧師と教会の祈りの共同の業である礼拝説教を通して、霊的に養われ、主の御姿に成長させられたことを感謝したい。

御言葉には命があり、力があり、私達を成長させる。

2017年10月15日の礼拝から、原語に忠実な新しい訳、新改訳2017の聖書を用い、新鮮に御言葉の素晴らしさを味わっています。

2. 人が救われる事、洗礼の恵みにあずかる事は、神の大きな喜び、私たちの大きな喜びです。

2017年12月に3名、2018年2月に1名の方が洗礼を受けられました。恵みの与え主の神に感謝し、祈り支えられた皆様に感謝します。

3. 2017年9月3日の礼拝から、子供達のバンド、チームによる子供賛美が礼拝の中で奉げられるようになり、心から感謝します。

神が喜んでおられ、大人の私達も共に賛美しつつ励まされています。教会の中に、子供達を励まし、楽器を教え、賛美を教える方々を神が与えられている恵みを感謝します。

※私が、この子供賛美の恵みを他の教会に証ししますと、他の教会の方々も大変励まされるのですが、その後、分かった事は、やはり、子供達だけでは、出来ないという事です。やはり、教会の祈りの励まし、そして子供達を実際に励まし、楽器を教え励ます賜物が与えられている教会のメンバーが必要という事です。私たちの教会に、神が、子供達を与え、子供達を愛する教会を与え、子供達を愛し励まし賛美の指導をする方々を与えておられる恵みを感謝します。

イエス様の様に、どの年代の方々も愛し、また、子供達を愛し、教会の子供達として育てて行くなら、信仰継承がなされ、将来、今の子供達が教会を愛し支える器になる教会に成長できます。日本全体が高齢社会です。その中に置かれている全国の教会も高齢化が進んでいます。そんな中でも、コツコツと今与えられている子供達、若者を愛し育て、子供達の出番を与えている教会は、成長しています。その姿に年配の方々も励まされています。

「イエスは言われた。『子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです。』そして手を子どもたちの上に置いてから、そこを去って行かれた」(マタイ19：14, 15)。

4. 2017年9月3日の礼拝後、藤野聖山園で教会の墓地の奉献式が出来ました。

2015年7月24日に、4,300万円の会堂返済が完済し、その約2年後に墓地の必要も満たされ、神から与えられた墓地を神に奉げる奉献式をさせていただいて、当教会に墓地が与えられたことは大きな恵みです。

「神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます」(ピリピ4：19)。

5. 私、堀田に、主からの導きが与えられ、1年延期していただいて、2019年4月に札幌聖書キリスト教会に転任する事になり、2018年1月28日の臨時総会で、決議がなされ後任者として木村太師(現七飯福音キリスト教会牧師)が決まりましたことを感謝します。

主が備えて下さいました。

「キリストご自身が、ある人たちを…牧師また教師としてお立てになりました」(エペソ4：11)。  
教会に牧師を立てられるのはキリストご自身です。

Ⅱ 神から与えられた賜物を用いて支配するのではなく、互いに仕え合い、主の教会を共に建て上げる教会。  
「それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい」(Iペテロ4：10)。

1. 神はひとりひとりに例外なく賜物を与えておられる。

神から与えられている賜物＝能力、経験、年齢、特技、失敗から学んだ貴重な教訓等。

2. 自分に与えられている神からの賜物が何かを知るには＝

①自分が無理をせずやれる事、好きな事、喜んでやれる事、自分らしくやれる事。

②色々な事をやってみるうちに、自分に与えられている賜物が分かる。

③人から「あなたには〇〇の賜物を与えられていますね」と言われて分かる事もある。

3. 神からの賜物の成長＝「その賜物を用いて」(Iペテロ4：10)。

せっかく神から賜物を与えられていても、それを「用いないと」それは、生かされず、衰える事もある。

「一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した」(マタイ25：18)。

「だれでも持っている者は与えられてもっと豊かになり、持っていない者は持っている物までも取り上げられるのだ」(マタイ25：29)。

→神に与えられた賜物を、神の栄光と教会の建て上げと人々の救いの為に用いる人には、神はそれをご覧になり、もっと賜物を与えられ、せっかく神が与えられた賜物を用いない人からは、神はその賜物を取り上げられる。もったいない人生へ。

主の教会の奉仕にも当てはまる。やり過ぎて疲れ果てるのではなく、自分に与えられた分、賜物に応じて感謝しつつ奉仕する人は「成長」という賜物を神は下さる。又謙遜に奉仕すればするほど、奉仕の質も上がって行く。

※但し、それぞれ体調もあるので、最初は喜んでやっても、重荷になる事もある。その調整をする為にも牧師が立てられている。奉仕が辛い時は、牧師に遠慮なく、伝えて下さい。私は「奉仕を休んでも構いませんよ。奉仕は大切ですが、奉仕以上にあなたの体、心がもっと大切です。神は、私達を奉仕の量で計る事はなさいません。休まれて、時満ちて回復されたら、相応しい奉仕を祈り求めましょう」と寄り添う事を学んで来ました。神が働かれて、時満ちて回復する方々を見て来ました。

※私達は、体調を崩したり、年を重ね、奉仕が出来なくなる時が来る。その時覚えたい！他の人の為に祈る奉仕がある事を！祈り支える事は立派な奉仕である。

4. 「互いに仕え合いなさい」(Iペテロ4：10)。

神は、謙遜に仕える心のない人を用いる事はなさらない。能力があっても、神と人に仕える心のない人は神に用いられない。

仕える心のない人は、支配的で、他の人の意見に耳を傾けない。その人は協調性がないので、主の教会を皆と協力しつつ建て上げることが出来ない。

仕える心のある人は、謙遜で支配的ではなく、人の助言にも互いに耳を傾ける。

して「やっている」という高慢な人は、事情があってやれない人をさばく。

しかし、罪深いこんな私も、主の恵みで奉仕を、させて「いただいでる」という心で奉仕する人は幸い。支えられた神に栄光を帰し、祈り支えてくれた方々に感謝をする。その奉仕は、感謝のかぐわしい香りがし、主の教会を建て上げる！